

## 神戸大学・京都大学・大阪大学 「中国蘇州シンポジウム」開催

平成24年9月6日、中国蘇州において、関西の国立3大学（神戸大学、京都大学、大阪大学）と中国の有力5大学（復旦大学、上海交通大学、蘇州大学、同済大学、浙江大學）の総長・学長が一堂に会し、「グローバル人材育成に向けた国際化戦略」をテーマとしたシンポジウムを開催しました。

民間主催のシンポジウムで、日中有力大学のトップが一堂に会するのは極めて珍しいことです。

当行は、平成18年に日本の地方銀行では初めて、蘇州市に駐在員事務所を開設し、お取引先企業の中国進出を積極的にサポートしています。その中で、中国進出企業の皆様方から、「現地法人の総経理（社長）等の主要ポストに、日本の言葉・文化・習慣を熟知した中国人を配すること」や「できれば日本への留学経験がある人が望ましい」とのお声を数多くお聞きしております。

他方、国内外の大学においても、国際化・情報化の進展と共に「グローバル人材」をどう育成するかが大きなテーマとなっています。

今回のシンポジウムは、内外の大学と現地企業との交流を促進し、現地企業と海外留学生との橋渡しを行うことで、日中に跨る新しい産学連携の絆を構築することを目的に、産・学による「情報発信」と「意見交換」の場として企画しました。

はじめに日中8大学の総長・学長がそれぞれ、テーマに基づく講演を行い、続いてのパネルディスカッションでは、経済界から、日立製作所執行役常務・中国総代表の



北山隆一氏と、金融界から、当行相談役の服部盛隆が加わり、「人文の知恵に学び、国際的リーダーの育成が必要」との認識で一致をみました。

また、シンポジウムの一環として、日中8大学の最前線の研究者が「グリーン・イノベーション」をテーマに、最新の取り組み状況とその成果について講演。最先端技術に触れ、知的交流の貴重な場となりました。



「グリーン・イノベーション」講演会

今回のシンポジウムは、関西3大学の全面的なご協力を得るとともに、近畿経済産業局、関西経済連合会、大阪商工会議所を始めとした多くの機関からもご後援をいただきました。